

製品安全データシート(MSDS)

1 化学物質等及び会社情報

製品名 浸透性無機質コンクリート躯体防水材 Osmo (オズモ)建築防水用
供給者 株式会社リナック八千代
所在地 〒530-0044 大阪市北区東大橋4丁目10-17
担当部門 研究開発室
電話番号 06-6358-6321
FAX 番号 06-6358-6320
作成日 2012/04/01
改定日 2013/11/01

2 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
化学名及び一般名 : アモルファスシリカを含む無機化合物

3 危険有害性の要約

分類の名称 : 分類基準に該当しない。
火災・爆発性 : 不燃性物質。
有害性 : アモルファスシリカは、IARC でクラス 3(ある条件の下で行われた動物実験から限定された証拠はあるが、それ以外の強い支持根拠は無い)に分類されている。

4 応急処置

一般情報 : 事故発生時、または気分が悪い場合は医師の診察を受ける。
吸入した場合 : 新鮮な空気を与えて安静にし、速やかに医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合 : 直ちに多量の清水で洗浄する。
目に入った場合 : 直ちに流水で15分以上洗い流し、眼科医の処置を受ける。
飲み込んだ場合 : 直ちに吐かせ、速やかに医師の診断を受ける。

5 火災時の措置

一般情報： 無機物であり燃焼しない。

6 漏出時の措置

一般情報： 少量の場合は水で洗い流す。

多量の場合は直ちに拭き取り、塩酸、硫酸などの鉱酸にて中和する。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い： 必要に応じて保護メガネ、防護マスク、ゴム手袋等の保護具を着用する。

保管： 直射日光を避け、0℃以上 40℃以下にて保管することが望ましい。

特に一度凍結した製品は、凍結前の物性等が回復しないので使用しないこと。

8 暴露防止及び保護措置

暴露限界値等の許容濃度：未設定。

参考 二酸化珪素またはアモルファスシリカとしての日本産業衛生学会及び ACGIH、OSHA の許容濃度は以下の通り。

日本産業衛生学会許容勧告値；

遊離珪酸 30%以上の粉塵 2 mg/m³

遊離珪酸 30%未満の鉱物性粉塵 5 mg/m³

ACGIH；

Silica (Amorphous) fume TLV-TWA 2.0 mg/m³ (Respirable)

Silica (Amorphous) fused TLV-TWA 0.1 mg/m³ (Respirable)

OSHA；

Silica (Amorphous) PELs-TWA 20 mppcf (million particles per cubic feet)

PELs-TWA 0.8 mg/m³ (Total dust)

防止対策： 保護メガネ、防護マスク、ゴム手袋等の保護具を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観： 無色あるいは淡黄色透明の液体

臭気： 無臭

物理的及び化学的性質：

比重 1.400～1.480 (20℃)

pH 12.4～13.2(20℃)

水溶解性 溶解する

10 安定性及び反応性

- 一般情報 : 通常の取扱い条件において危険な反応等は報告されていない。
避けるべき条件 : 凍結させた場合、分散質成分がゲル化することがある。
避けるべき物質 : 酸、アルカリを添加した場合、ゲル化することがある。
危険有害な分解生成物 : データなし。
-

11 有害性情報

- 急性毒性 : 区分外
感作性 : 区分外
慢性毒性 : 区分外
長期毒性 : 区分外

参考 アモルファスシリカとしては以下の通り。

急性毒性

煙霧状 ;	静脈—ラット	LD ₅₀ : 15 mg/kg
溶融物 ;	経口—ラット	LD ₅₀ : 3160 mg/kg
	静脈—マウス	LDLo : 9 mg/kg
	静脈—ウサギ	LDLo : 35 mg/kg
	腹腔—モルモット	LDLo : 120 mg/kg
	静脈—モルモット	LDLo : 100 mg/kg

12 環境影響情報

- 残留性、分解性 : 該当なし
生態蓄積性 : 該当なし
生態毒性 魚毒性 : 該当なし
-

13 廃棄上の注意

- 一般情報 : 地域の規則に従う。
必要に応じて保護メガネ、防護マスク、ゴム手袋等の保護具を着用する。
残余廃棄物 : 廃液、残液はアルカリ性であり、塩酸等の鉱酸により中和する。
-

14 輸送上の注意

一般情報 : 本製品は消防法上での危険物ではない。
直射日光を避け、0℃以上 40℃以下にて輸送することが望ましい。

15 適用法令

労働安全衛生法 : 第 57 条の 2 施行令第 18 の 2 別表第 9
(通知対象物質) ; シリカ

PRTR 法 : 該当しない

16 その他の情報

記載内容は、現時点で入手しえる資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには充分注意してください。

注意事項は通常の実施を前提としたものなので、特殊な取扱いの場合には、ご使用者各位の責任においてその用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。

また含有量、物理化学的性質、危険有害性等に関しては情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。

引用文献 : 化学品安全管理データブック(化学工業日報社)